

▲ この画面は動作確認用です。一般公開用のURLではありませんのでご注意ください。

入力フォーム

1 入力

2 確認

3 完了

地球温暖化の影響を受けて、将来、様々な気候変動の影響が予測されています。

今回、国の報告書などにおいて予測されている内容をもとに、オムニバス形式で近未来のまちを想定した4つの短いお話を作りました。

ぜひ、読んでいただいて質問にご回答ください。

なお、4つのお話は全てフィクションです。

※ 4つのお話の無断転載や改変はご遠慮ください。

01_ショートストーリー_災害前夜編

[PDFはこちら](#)

02_ショートストーリー_熱中症編

[PDFはこちら](#)

03_ショートストーリー_農業編

[PDFはこちら](#)

04_ショートストーリー_インフラ編

[PDFはこちら](#)

気候変動の主な影響予測の一覧

[PDFはこちら](#)

Q1. 興味のある分野はなんでしたか？ 必須

- ☒ 災害に関する分野
- ☐ 熱中症に関する分野
- ☐ 農業に関する分野
- ☐ インフラに関する分野

Q2. 災害に備えて、ご自分が「やった方が良い」と思ったことは何ですか？ 3つ選んでください。 必須

- ☐ 日ごろからハザードマップをよく確認して、自宅や学校、勤務先などの状況を把握しておく。
- ☐ 避難場所や連絡方法など家族とよく話し合っておく。
- ☐ 地域の防災訓練や防災教育などに参加してご近所と協力できる体制を作っておく。
- ☐ 雨や風など災害の種類に応じた家庭での対策を考えておく。
- ☐ 災害に関する警報の種類やその内容の把握しておく。
- ☐ 防災アプリの利用やラジオの準備などを、災害時でも情報を受け取れるようにしておく。
- ☐ 食料や医薬品、電池やバッテリーなど、災害時、必要な物の備蓄や管理をしておく。
- ☐ 災害時に使える伝言ダイヤルやSNSなどの連絡手段を理解し、日頃から実際に使ってみて慣れしておく。
- ☐ 災害に備えて保険の加入状況や必要な情報を確認し、適切な補償を受けられるよう準備しておく。

Q1. 興味のある分野はなんでしたか？ 必須

- ☐ 災害に関する分野
- ☒ 熱中症に関する分野
- ☐ 農業に関する分野
- ☐ インフラに関する分野

Q3. 熱中症の対策として、ご自分が「やった方が良い」と思ったことは何ですか？ 3つ選んでください。 必須

- ☐ 暑さ指数（WBGT）や警戒アラートの発表等の情報を受け取れるようにする。
- ☐ 熱中症の仕組みや症状、予防方法などの情報収集をする。
- ☐ 家族や近所の人たちへの声掛けや配慮をする。
- ☐ 熱中症予防のため涼しい時間に行動したり生活習慣を見直すなど工夫する。
- ☐ 日傘や帽子、涼しい服装などを積極的に心掛ける。
- ☐ 仕事や学校活動、イベントなどでこまめな休憩や水分補給などを心掛ける。
- ☐ 熱中症で具合が悪くなった人の応急措置を事前に学ぶ。
- ☐ 自宅や仕事場などにおいて、温度や湿度、暑さ指数など見える化して体感に頼らない予防を心掛ける。
- ☐ エアコンを適切に使用し、我慢に頼らず予防する。
- ☐ カーテンやよしず、グリーンカーテンなどを使って屋内に日射が入るのを防ぐ。
- ☐ 日ごろから適度な運動や暑さに備えた体づくりを行う。

Q1. 興味のある分野はなんでしたか？ 必須

- ☐ 災害に関する分野
- ☐ 熱中症に関する分野
- ☒ 農業に関する分野
- ☐ インフラに関する分野

Q4. 農業に対する気候変動の影響に備えて、ご自分が「やった方が良い」と思ったことは何ですか？ 3つ選んでください。

必須

- ☐ 【一般消費者】地域産の農産物を選び、気候変動に強い地域農業を支える。
- ☐ 【一般消費者】旬の食材を選び、無理のない生産と環境負荷の軽減に貢献する。
- ☐ 【一般消費者】直売所や農業イベントに参加し、地域農業への理解を深める。
- ☐ 【一般消費者】地産地消や環境配慮を掲げる店舗を選び、持続可能な農業を支援する。
- ☐ 【一般消費者】小規模な家庭菜園や農業体験に参加し、農業と気候変動の関わりへの理解を深める。
- ☐ 【農業従事者】天気予報や気象情報を日常的に確認し作業計画を柔軟に調整する。
- ☐ 【農業従事者】高温に強い品種の導入や遮光資材の活用で、猛暑の影響を軽減する。
- ☐ 【農業従事者】渇水や豪雨に備え、用水路点検や排水改善など水管理を強化する。
- ☐ 【農業従事者】換気強化やミスト導入などの暑さ対策で家畜の暑熱ストレスを軽減する。
- ☐ 【農業従事者】台風や豪雨に備え、ハウス・畜舎・機械の点検と補強を行う。
- ☐ 【農業従事者】地域の農業者と情報共有し、災害時の協力体制を平時から整える。
- ☐ 【農業従事者】高温・病害に強い品種や早生・晩生を組み合わせ、リスクを分散する。

Q1. 興味のある分野はなんでしたか？ 必須

- ☐ 災害に関する分野
- ☐ 熱中症に関する分野
- ☐ 農業に関する分野
- ☒ インフラに関する分野

Q5. 電力や道路などインフラの被害に備えて、ご自分が「やった方が良い」と思ったことは何ですか？ 3つ選んでください。 必須

- ☐ 停電に備え、蓄電池やモバイル電源、懐中電灯などを家庭に準備しておく。
- ☐ 断水に備え、飲料水と生活用水を十分に備蓄し、定期的に入れ替えておく。
- ☐ 道路が被害を受けることに備え、複数の避難経路や移動手段を事前に確認しておく。
- ☐ 物流停止に備え、保存食や簡易調理できる食品、医薬品やオムツなどを家庭に備蓄する。
- ☐ 停電による冷凍冷蔵庫停止に備え、常温保存できる食品を確保しておく。
- ☐ 断水や下水障害に備え、簡易トイレや処理袋を家庭に用意しておく。
- ☐ 防災アプリの利用やラジオの準備などをして、災害時でも情報を受け取れるようにしておく。
- ☐ 給油困難に備え、車の燃料を常に余裕を持っておく。
- ☐ 暑い時期の停電に備え、保冷剤や冷感タオルの活用や車のエアコンなど熱中症を避ける対策を検討しておく。
- ☐ 寒い時期の災害に備え、電池が不要なストーブや燃料などの準備をしておく。

※Q1 の選択により、Q2～5 が自動表示。

Q6. 選択肢のほかに「実践をしている」または「やっておきたい」対策がありましたら教えてください。

例：避難に備えて飼い犬のペットフードを備蓄している。
小型の太陽光電池がついたランタンを持っている。

0 / 60000

→ 確認画面へ進む

📄 入力内容を一時保存する

ショートストーリー 第1話 災害前夜編

夕方のニュースが、居間のテレビから淡々と流れていた。

「台風27号は現在も強い勢力を保ったまま北上しています。東北地方では、明日の明け方から災害級の風雨となる恐れがあります。先日の26号に続き、再び激しい雨と風が予測されています。住民の皆さんは、どうか早めの備えを……」

アナウンサーの落ち着いた声とは裏腹に、画面に映る台風の接近を知らせるテロップの赤い警戒色がじわりと不安を煽る。

私は庭に目を向けた。

大切にしている庭の草花たちが、8月の今はまだ強い夕陽を受けてはつきりと葉が浮かび上がり、緑のコントラストを際立たせながら、風に揺れている。

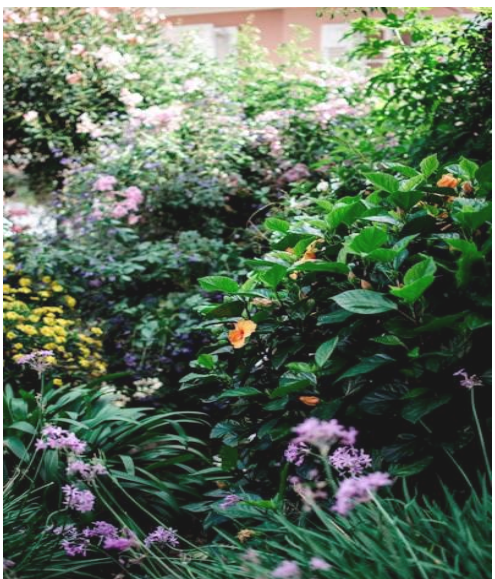
さっきまで遠くの田んぼからは刈払い機の音が少し急ぐように響いていた。

「すこし強くなったかしら」

穏やかだった風が、庭の草花全体をまとめて押すように揺らしていく。

その揺れ方の変化に、私はほんの一瞬だけ息を止めた。

そのとき、玄関のドアが勢いよく開く音がした。



「ただいまー！」

娘の声は、いつもより少し早口だった。自転車をとめて入ってきた娘の頬は赤く、息も少し上がっている。

「部活、中止になっちゃって……！ 台風が来るからって先生が早く帰れて。だから急いで帰ってきたの」

小さなぬいぐるみがついた自転車のカギを靴箱の上に置きながら靴を脱ぐ。

外はまだ明るく、強い西日が湿気を絡ませながら庭の草花を鮮やかに照らしている。

「おかえり。暑かったでしょう」

私は麦茶を差し出した。

娘は一口飲んでから、テレビに目を向ける。

「……ほんとに台風来るんだね。今年、もう何回も『怖い雨』あったのに」

私は少しだけ表情を曇らせた。

「この間も降ったばかりなのにね。ほら、テレビでも言っていたじゃない。最近は何もなかったな“夏の雨”じゃなくて、降るときは一気に怖いぐらい強くなるって……。気温が上がると雨の量も増えるらしいし、なんだか年々、雨の降り方が変わってきている気がするわ」娘はグラスを握りしめた。

「道路が川みたいになった日、ほんとに怖かった……。またあんなふうになつたら、どうしよう」

「この前の雨もすごかったでしょう？ あんなふうに一気に降ると、道路がすぐに水だらけになっちゃうのよね。降り方が異常だって、テレビでも言っていたし……」

私は庭の草花を見ながら言った。
日が傾いたせいだろうか、さっきまではっきりとしていたその姿が、影を濃くし始めている。ふと空を見上げると、かなりの速さで雲が流れていく。胸の奥に小さなざわめきが広がった。

そのとき、玄関が再び開いた。

「ただいま」
夫が少し息を切らしながら入ってきた。

「外、急に風が強くなってきた」

私は娘と顔を見合わせた。
娘は「えっ、お父さん、早いね」と小さく驚いた声を出した。
たしかに、いつもよりずっと早い。



「どうしたの？　こんな時間に」
そう聞くと、夫は靴を脱ぎながら、
「電車が止まるっていうからさ。会社でも早めに帰って言われて
急いで戻ってきたんだ」と答えた。

私は娘と顔を見合わせた。

「そんなにひどくなってきたのね……」

夫は頷き、窓の外をちらりと見た。

「最近本当に油断できないよ。ほら、この前も一気に降って道路が
すぐ水だらけになっただろ？　堤防が溢れなくても、排水が追いつ
かなくて浸水することだってあるんだって。強い台風も増えてるっ
てニュースでも言ってたし……とにかく、早めに準備しておいたほ
うがいい」

私は庭を見た。

鉢植えも、地植えの草花も、風に揺れながら小さく身をすくめてい
るように見えた。

「……この子たち、家の中に入れたほうがいいわね。鉢植えはなんと
か全部。」

「そうだな。倒れたらかわいそうだ」
夫の言葉に、私は小さく頷いた。

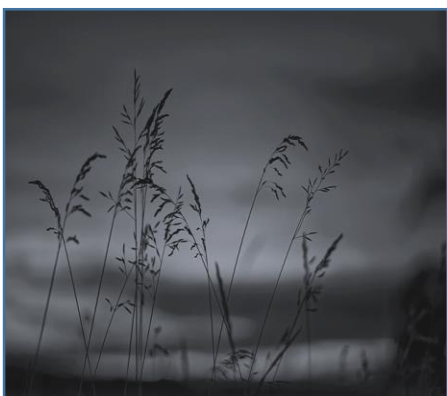
夜の気配が静かに強まっているなか、風ははつきりと音を立て始め
ている。

「……怖いけど。家族でちゃんと準備すれば、きっと大丈夫よね」
娘が言うと、私はそっと肩に手を置いた。

「ええ。大丈夫よ」

その瞬間、家の外で風がひととき強く吹き、庭の木々がざわりと揺
れた。

暗闇に押されてかすかに残る夕日の最後の一筋が消える。
静かに、『嵐』の気配が忍び寄っていた。



ショートストーリー 第2話 熱中症編

放課後の校舎は、いつもより静かだった。台風が近づいているせいで、全ての部活が中止になったのだ。今は、校舎裏のベンチでぼんやりと空を見上げていた。むわっとした湿気が肌にまとわりつき、夕方の西日が校舎のコンクリートに反射して、じりじりとした熱を返してくる。

「今日も中止かあ。せつかく試合前で気合い入ってたのにな」

隣でため息をついたのは、同じサッカー部の友人だ。

3か月前の早朝練習で熱中症になったばかりで、まだ本調子じゃない。

「まだ5月だったしさ、朝なら涼しいと思ったんだけどな……。まさかあの時間で熱中症になるなんてさ」

友人は苦笑しながらカバンから水筒を出す。最近では2本持ち歩いているらしい。

「いや、ほんと驚いたよ。お前って体力あるし、誰より走れるのに」

俺が言うと、友人は肩をすくめた。

「どんなに体力あっても関係ないんだってさ。先生にも言われたけど、寝不足とか体調とかいろいろ絡むと急に来るらしい」

「あー、そういえば言ってたよな。最初はちょっとだるいくらいだったんだろ？」

「そうそう。で、なんか変にめまいしてさ。体の力が抜ける感じで……。あれ、ほんとにヤバかった」

友人は冗談めかして言ったが、水筒を握る指に少し力が入る。



今の東北は、昔よりずっと暑いという。
ぶっちゃけ夏の東北が涼しいなんて想像もできないけど、昔の東北はずっと涼しかったらしい。4月に新入生が入学してくるとあつという間に夏が来て、すぐ外の活動が制限される。

熱中症は重症化すると命に関わる大事だって。熱中症になる人も死ぬ人も前よりずっと増えてるって。前に授業で聞いた話をふと思い出したとき、友人が倒れた時のシーンが蘇って俺は胸の奥が少しざわついた。

「でもさ、校庭使えないのはやっぱり不満だよな」

あの時の怖さで心がヒヤリとしている俺の気も知らず、友人はふと漏らす。

俺は空を見上げた。

西日が赤く滲み、空の端では黒い雲がゆっくりと広がり始めている。風も少し強くなってきた。

「体育館も取り合いだしな。エアコンあるのはありがたいけど、どの部も使いたがるから全然練習できないし」

友人が言うと、俺は苦笑した。

「夏場は校庭ほぼ使えないもんな。昔は普通にやってたらしいけど……今じゃ熱中症警戒アラート出まくりで即中止だし」

二人でそんな話をしていると、校舎の影から人影が近づいてきた。担任の先生だ。生徒からの信頼も厚く、俺たちの部活にもよく顔を出してくれる。

「お前たち、まだ帰ってなかったのか」

先生は少し呆れたように笑ったが、その目には心配が浮かぶ。

「体調はどうだ？ 無理してないか？」

「はい、もう大丈夫です。ありがとうございます」

友人が頭を下げると、先生は安心したように頷いた。

「熱中症はな、怖いんだぞ。油断するなよ」

先生の声は穏やかだが、どこか切迫感があった。

空を見上げると、黒い雲がさらに広がり、風が校舎の窓をガタガタと鳴らしていく。



「それに、台風が来てる。今日は早く帰れ。電車も止まるかもしれないしな」

先生が言ったそのとき、

「先生さよならー！」

明るい声が響いた。

自転車で校門へ向かう女子生徒が、先生に手を挙げている。サドルの下で、鍵についた小さなぬいぐるみが、風に揺れてぶらぶらと手を振るように揺れていた。

その光景を見て、俺はふと思った。

……あ、帰らなきゃ

「先生、俺たちも帰ります」

「そうだ、気をつけて早く帰れよ」

先生が笑う。

「じゃ、行くか」

「うん」

俺と友人は並んで歩き出した。

少し強い風が頬にあたる。どこか湿った匂いが顔を包む。

空の向こうから台風の気配が静かに、確実に迫ってきているのを感じた。

徐々に空の暗さが広がっていく。さっきまでの放課後の夕日の光はどんどん駆逐されていく。

ふと思う。もし今夜、停電になって、この暑さの中でエアコンが使えなくなったら……

暗闇と同じように暑さからも逃げ場はない。



ショートストーリー 第3話 農業編

真夏の太陽が傾きはじめ、田んぼ一面の緑が揺れる。

風が出てきたから、少しは涼しくなるだろう……そう思って軽トラックを畦畔に停めたが、降りた瞬間にまとわりつく湿気に、思わず眉をひそめた。

むわっとした空気が肌に貼りつく。台風が近づいていると天気アプリが言っていたが、まだ明日の話だ。空は薄曇りながらも光を保ち、作業には十分だ。

荷台から草刈り機を降ろしていると、助手席の窓から白い犬が顔を出した。ハッハッと舌を出しながら、どこか期待に満ちた目をしている。

一緒に田んぼに来るのはいつものこと。助手席のドアを開けると自分で飛び降りてちょうど車体の影の中に座る。

荷台から出した銀色の深皿に大きめの氷と水を注いで近くに置いてやると、少し舐めた後、大きく伸び始めた車体の影に寝そべった。

「今日は風があるから、日射しさえなければ結構涼しいよな」
自分で快適な場所を見つけた飼い犬に満足して、軽く頭を撫でたあと、手袋をはめ、草刈り機を背中に背負った。

つばの広い麦わら帽子をかぶって 安全メガネをかける。
背中の草刈り機は燃料を満タンにすればかなりの時間稼働するが、今日は昨日の残りで大して入っていないはず。

「暑いし1時間も刈れば十分か」
つぶやきながら腰のあたりのスロットルを勢い良く引いてエンジンをかけた。

右から左へ、右から左へ。

草が倒れ払うたびに、回転する刃の音が畦畔にリズムを刻む。汗が首筋を伝い、シャツの背中にじっとりと広がっていく。

今の東北は、昔のような涼しさはもうない。高温に合わせた品種を栽培しているが、もっと暑くなったらどうなるかわからない。

害虫の発生時期は早まり、分布域も広がった。昔はカメムシを防ぐために地域でそろえて年3回程度やっていた草刈も、高温化で二期作が東北で始まってから回数が増えた。



しばらく夢中になって草を刈り進めていると、ポケットのスマホが震えた。画面にはニュースアプリの通知が浮かぶ。

「台風27号接近中。十分な備えを……」

風が少し強くなった気がした。空の端には黒い雲がじわりと広がっている。

スマホが再び震えた。妻からの電話だ。

「もしもし？ そっち、どう？ 暑くない？」

「暑い。風はあるけど思ったより涼しくないよ」

「やっぱり……。あのね、牛たち、餌の食いがまた悪くて。手伝ってほしいのと、またひどい雨が降った時のために牛舎の周り、土嚢積むか相談したくて」

「風も強いって言ってたな。わかった、すぐ帰る」

つい先日の台風では、牛舎が浸水ギリギリで助かったばかりだ。今度は風も強いらしい。心配の種は増えるばかりだが、やれることからやるしかない。

草刈り機を止め、軽トラの荷台に積み込む。刃に絡んだ草をとって投げ捨てていると、犬がいつの間にか荷台に上り、道路のほうに顔を出してしっぽをブンブン振っている。

すぐに女子高生が自転車をこぎながら通り過ぎていく。

「あ、かわいい……！」

驚いたように目を丸くし、しかしすぐ笑顔になって走り去っていく。

犬は得意げにさらに強く尻尾を振った。

「ほれ、行くぞ」



犬を抱き上げて助手席に放り込むと、じゃれつくように前足を伸ばしてくる。遊んでほしいのだろう。だが今日は無理だ。軽く頭を撫でていなしながら、運転席のドアを開ける。

その瞬間、背中を押すように強い風が吹いた。湿った重い風に急かされるように 運転席に乗り込んだ。

気づくと空はさらに暗くなり、黒い雲が田んぼの向こうまで広がり始めていた。台風の気配が、確実に近づいている。

「帰るぞ」

草刈り機の振動を抑え込んでいたせいで少し震えている手から手袋を外し、血の巡りを取り戻すように握ったり閉じたりしてから軽トラックのエンジンをかけた。

助手席の犬は少し顔をあげてこちらを見たがすぐに重ねた前足に頭をのせていつもの体制になる。

家までの道を走りながら、胸の奥に重い影が広がる。

暑さに大雨、風も吹く。米も、牛も、畑の野菜もそりや具合悪くなるよな。気候変動なんて昔騒いでいたようだけれど、もう真っ只中で逃げようがないよ。

それでも―― やれることからやるしかない。

軽トラは、湿った風を切り裂きながら家へ向かって走り続けた。



ショートストーリー 第4話 インフラ編

朝から、窓の外は一面の灰色。雨が横に走っていく。風は家を揺らし、時折、唸り上げるような音が響く。

台風27号……今年に入って何度目の強い台風だろう。最近の雨は短い時間で強く、台風の勢力も落ちにくくなったと、テレビがしゃべっていた。

私は少し遅い朝ご飯を食べる老夫婦と一緒にテレビの前に座り、画面に流れる警報や避難情報をじっと見つめていた。

電気はまだ通じている。水道も問題ない。

だが、前回の台風のとくに使った電池や食料の補充を忘れていたらしく、夫婦は「何が残ってたっけ」「あなた、電池買ってくるって言ってたじゃない」とやり取りを続けている。

私はため息をつきそうになる。

この二人は好きだし、尊敬もしている。けれど時々、こうしてハラハラさせられるのだ。

「ハザードマップ、どこにしまったっけ？」

夫が本棚を探し始めるが、見つからない。

妻は「知らないわよ」と呆れ気味だ。

……仕方ない。



私は静かに立ち上がり、本棚とは反対の棚に向かう。

夫が積んだ雑誌の山に手を伸ばすとハザードマップがずるりと出てきた。

「おっ……あった！」

「あなた、しまいすぎなのよ」

夫は苦笑し、妻は軽く怒る。

私は心の中で「まったく」とつぶやきながら、自分の定位置に戻った。

午後になり、風雨が少し弱まった。

その瞬間、家の照明がふっと消えた。
テレビも沈黙する。

停電だ。

豪雨や強風で、電気や水が止まることがあるってことは知っている。
人々は平常時のように暮らせなくなる。

今日もその一例なのだろう。

「少し外も落ち着いてきたし避難しよう」

夫が言い、妻が頷く。

準備が始まった。

薬、タオル、貴重品。

水道はまだ出ていたので、水筒に水を詰める。

そして……私のケージ。

ペットシートも忘れずに。

私はケージに入れられながら、二人の慌ただしい動きを見守った。

この二人は私が守らなければならぬ存在だ。

そう思うと、胸の奥が少し熱くなる。

車に乗り込むと、エアコンの涼しい風が流れた。

まだ風は強いが、雨は小降りになっていて朝よりは路面が見える。

茶色い水が川のように流れていた朝の光景を思い出し、背筋がぞくりとした。

水は嫌だ。

避難所へ向かう道は、ところどころ陥没していた。

斜面が崩れ、土砂が道路に流れ込んでいる場所もある。

夫婦は慎重に車を進め、私はケージの中で揺れに耐えた。いつも車で出かけるときはこんなものだから何でもないと自分を励ます。

やがて、大きな地区センターが見えてきた。

駐車場には避難してきた車が並び、人々が慌ただしく出入りしている。

センターは、薄暗い。玄関の奥にわずかにオレンジ色の明るさがあるだけだった。



「非常灯か？」

「人はたくさんいるようだけど、大丈夫かしら」

車の中で夫婦がつぶやく。

中に入ると、多くの人が避難していた。徒歩で避難したのだろうか、どの人も髪や服が濡れている。

夏の暑さと外の雨でひどい湿気だった。濡れた服においては苦手だ。

高校生くらいの複数の男女が、おにぎりとお茶を配っていた。

どの子も顔に汗を浮かべ、必死だ。

「無理するなよ。暑いから休みやすみだぞ」

先生だろうか、心配そうに声をかけている。

夫婦におにぎりをくれた女の子のポケットから出ていた小さなぬいぐるみがユラユラと私の気持ちをそそったが我慢した。今はそれどころではない。

夫婦は避難の登録を済ませたが、とてもこの暑さと湿気の中では落ちて着けないと判断したらしい。これは、人ごみの中が苦手な私にとって朗報だった。

結局、周囲にも車で避難している人がいたので、私たちも車で過ごすことにした。

再び、エアコンの風に包まれてほっとする。

車の後部座席でケージから出してもらうと、私は自分の黒く艶のあるしなやかな体をゆっくりと伸ばす。ヒゲを整え毛づくろいをする。長いしっぽは自慢だ。

ふと横を見ると、隣の車から白い犬がハッハッと舌を出しながらこちらを見ている。

……お隣さんも大変だね。

心の中でそうつぶやきながら、私は丸くなった。

「スマホの電気もつたないからラジオにしろさいよ」

「スタンドはあいてるのかな……、今晚ずっとエアコンかけっぱなしになりそうだけど……」

夫婦の心配は尽きない。

もうすぐ、また暗闇が来る。

私は、そっと目を閉じた。

今のまま地球温暖化が進むと 例えばこんな気候の変化が予測されています

文部科学省 気象庁「日本の気候変動2025 大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書」
環境省「気候変動影響評価報告書 総説（2025年度版）」より

気温①

多くの地域で猛暑日や熱帯夜の日数が増加、冬日の日数が減少すると予測されています。

熱中症

高温による救急搬送者数、死亡者数の増加が予測されています。

感染症

マダニやヒトスジシマカなどが媒介感染症の発生件数や地域が増えることが予測されています。

その他疾病

気温の上昇による各種疾患（循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿器疾患等）の死亡率や入院、救急搬送の増加が予測されています。

気温②

工業化以前の気候での「100年に1回の高温」が、最悪のシナリオの場合、「100年に99回発生」するとの予測があります。

内水

短時間強雨の増加により、排水能力を超える「内水氾濫」が増えると予測されています。特に都市部・低地・中小河川流域で影響が顕著と予測されています。

農業（水稻）

現在の品種を引き続き栽培した場合、高温による品質の低下、収穫量の減少が予測されています。

農業（畜産）

高温による生産性、成長量、繁殖率の低下など影響の拡大が予測されています。

雨の降り方

極端な大雨がさらに増える。雨の降り方が「短時間に集中」する傾向が強まると予測されています。激しい雨が増えると予測されています。

山地

極端な大雨や降水量の増加による土砂災害の発生が増えることが予測されています。

農業（その他）

気温上昇による野菜や果樹などの生育不良、収穫量の減少、栽培適地の変化が予測されています。

インフラ

大雨や台風などによる（電気・ガス・水道・通信）の寸断、交通インフラへの影響、気象災害による被災者、避難者の増加が予測されています。

台風

海面水温の上昇により、台風が発達しやすい環境が増えることから、日本付近の台風は「強まる」と予測されています。また、強風域・暴風域が広がる可能性も指摘されています。

強風等

台風が強まるため、最大風速が大きい台風の割合が増えると予測されています。

洪水

洪水を引き起こす大雨が増え、ピーク流量（川の水量の最大値）が上昇すると予測されています。強い台風の増加と極端な降り方の雨の増加が組み合わさり、複合的な洪水災害が懸念されます。